

平成25年度(26年3月期) 中間決算の概要

平成25年11月8日



大光銀行

目 次

I. 平成25年度(26年3月期)中間決算の概要	
1. 損益状況	
(1) コア業務純益	1
(2) 経常利益	2
(3) 中間純利益	3
2. 業務計数	
(1) 貸出金	4
(2) 預金・預り資産	5
3. 不良債権	6
4. 自己資本比率	7
II. 平成25年度(26年3月期)業績予想	8

※本資料の前年同期比・増減率欄等の計数は、表上の数値による計算結果を表示しております。

I. 平成25年度(26年3月期)中間決算の概要

1. 損益状況

(1)コア業務純益

○コア業務純益は、前年同期比92百万円減少し、20億89百万円。

資金利益が減少したが、預り資産の積極販売などにより役務取引等利益が増加したほか、経費の削減に努め、前年同期比92百万円の減益にとどまった。

(単位：百万円)

項目	25年9月期 (A)	24年9月期 (B)	前年同期比 (A) - (B)
コア業務純益	2,089	2,181	△ 92

【コア業務純益の変動要因】

○主な増益要因

(単位：百万円)

項目	25年9月期 (A)	24年9月期 (B)	前年同期比 (A) - (B)
役務取引等利益	237	220	17
経費	7,056	7,201	△ 145
うち人件費	3,836	3,963	△ 127
うち物件費	2,933	2,951	△ 18

○主な減益要因

(単位：百万円)

項目	25年9月期 (A)	24年9月期 (B)	前年同期比 (A) - (B)
資金利益	8,856	9,146	△ 290

<参考>資金利益の変動内訳

(単位：百万円)

項目	25年9月期 (A)	24年9月期 (B)	前年同期比 (A) - (B)
預貸差利益 ① (② - ③)	6,911	7,428	△ 517
貸出金利息 ②	7,221	7,775	△ 554
預金利息 ③	310	346	△ 36
有価証券利息配当金 ④	1,963	1,811	152
その他 ⑤	△ 17	△ 93	76
資金利益 ① + ④ + ⑤	8,856	9,146	△ 290

(2) 経常利益

○経常利益は、前年同期比4億27百万円増加し、14億66百万円。

実質与信関係費用の減少や有価証券関係損益の改善などにより、前年同期比で増益となった。

(単位：百万円)

項目	25年9月期 (A)	24年9月期 (B)	前年同期比 (A) - (B)
経常利益	1,466	1,039	427

【経常利益の変動要因】

○主な増益要因

(単位：百万円)

項目	25年9月期 (A)	24年9月期 (B)	前年同期比 (A) - (B)
実質与信関係費用	510	950	△ 440
有価証券関係損益	59	△ 13	72

○主な減益要因

(単位：百万円)

項目	25年9月期 (A)	24年9月期 (B)	前年同期比 (A) - (B)
コア業務純益	2,089	2,181	△ 92

<参考1> 実質与信関係費用

(単位：百万円)

項目	25年9月期 (A)	24年9月期 (B)	前年同期比 (A) - (B)
実質与信関係費用(①+②-③)	510	950	△ 440
①一般貸倒引当金繰入額	△ 108	△ 354	246
②不良債権処理額	913	1,426	△ 513
うち個別貸倒引当金繰入額	319	781	△ 462
うち貸出金償却	535	572	△ 37
③償却債権取立益	293	121	172

<参考2> 有価証券関係損益

(単位：百万円)

項目	25年9月期 (A)	24年9月期 (B)	前年同期比 (A) - (B)
有価証券関係損益(①+②)	59	△ 13	72
①株式等関係損益	138	△ 213	351
②国債等債券関係損益	△ 79	199	△ 278

(3) 中間純利益

○中間純利益は、前年同期比3億9百万円増加し、9億14百万円。

法人税等調整額を含めた税金費用の増加などがあったが、前年同期比で増益となった。

(単位：百万円)

項 目	25年9月期 (A)	24年9月期 (B)	前年同期比 (A) - (B)
業 務 粗 利 益	9,067	9,582	△ 515
コア業務粗利益	9,146	9,382	△ 236
経 費	7,056	7,201	△ 145
業 務 純 益	2,119	2,734	△ 615
コア業務純益	2,089	2,181	△ 92
経 常 利 益	1,466	1,039	427
(経 常 収 益)	11,067	11,009	58
(経 常 費 用)	9,601	9,969	△ 368
特 別 損 益	△ 78	△ 22	△ 56
税引前中間純利益	1,388	1,016	372
法人税、住民税及び事業税	399	472	△ 73
法 人 税 等 調 整 額	74	△ 62	136
中 間 純 利 益	914	605	309

2. 業務計数

(1) 貸出金

○貸出金残高は、前年同期比140億円(1.6%)増加し、8,864億円。

事業者向け貸出、個人向け貸出、地公体向け貸出のいずれも増加した。

個人向け貸出は、住宅ローンを中心に増加した。

(単位：億円)

項目	25年9月末 (A)	24年9月末 (B)	前年同期比(C) (A) - (B)	増減率 (C) / (B)
貸出金残高	8,864	8,724	140	1.6%
事業者向け	5,165	5,139	26	0.5%
個人向け	2,625	2,579	46	1.7%
うち住宅ローン	2,429	2,372	57	2.4%
地公体向け	1,073	1,005	68	6.7%

(2) 預金・預り資産

○預金残高は、前年同期比172億円(1.3%)増加し、1兆2,461億円。

個人・法人預金ともに増加した。

○預り資産残高は、前年同期比77億円(6.3%)増加し、1,285億円。

生命保険が増加したほか、投資信託が増加した。

(単位：億円)

項目	25年9月末 (A)	24年9月末 (B)	前年同期比(C) (A) - (B)	増減率 (C) / (B)
預金残高	12,461	12,289	172	1.3%
うち個人	9,287	9,195	92	1.0%
うち法人	2,637	2,543	94	3.6%

(単位：億円)

項目	25年9月末 (A)	24年9月末 (B)	前年同期比(C) (A) - (B)	増減率 (C) / (B)
預り資産残高	1,285	1,208	77	6.3%
公債	527	563	△ 36	△ 6.3%
投資信託	356	313	43	13.7%
生命保険	380	309	71	22.9%
外貨預金	21	22	△ 1	△ 4.5%

3. 不良債権

○不良債権額(金融再生法)は、前年同期比55億円減少し、356億円。

経営改善支援に積極的に取り組み、危険債権、要管理債権が減少したほか、不良債権の最終処理を進め、破産更生債権及びこれらに準ずる債権が減少した。

○不良債権比率は、前年同期比0.69ポイント低下し、3.98%。

(単位：億円)

項目		25年9月末 (A)	24年9月末 (B)	前年同期比 (A) - (B)
金融再生法開示債権	破産更生債権及びこれらに準ずる債権	59	73	△ 14
	破綻先債権	7	15	△ 8
	実質破綻先債権	51	57	△ 6
	危険債権	289	327	△ 38
	要管理債権	8	10	△ 2
	小計 (A)	356	411	△ 55
	正常債権	8,601	8,399	202
	債権額合計 (B)	8,957	8,810	147
不良債権比率 (A / B)		3.98%	4.67%	△ 0.69 ^{ポイント}

4. 自己資本比率

○自己資本比率は、単体・連結ともに前年同期比0.90ポイント低下し、単体が11.53%、連結が11.56%。

劣後債の償還によるTier2の減少などにより、前年同期比で低下した。

○Tier1比率は、単体が9.66%、連結が9.68%で、引続き十分な水準を維持。

(単位：億円)

項 目		25年9月末 (A)	24年9月末 (B)	前年同期比 (A)-(B)
単 体	自己資本比率	11.53%	12.43%	△ 0.90 ^{ポ イ ン ト}
	T i e r 1 比率	9.66%	9.61%	0.05 ^{ポ イ ン ト}
	自己資本	708	748	△ 40
	リスクアセット	6,138	6,021	117
連 結	自己資本比率	11.56%	12.46%	△ 0.90 ^{ポ イ ン ト}
	T i e r 1 比率	9.68%	9.62%	0.06 ^{ポ イ ン ト}
	自己資本	711	752	△ 41
	リスクアセット	6,154	6,038	116

II. 平成25年度(26年3月期)業績予想

(単位：百万円)

項 目	通 期 (26年3月期)	
	連 結	うち単体
経 常 利 益	2,210	2,150
当 期 純 利 益	1,270	1,240

(注) 上記の予想は、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想値と異なる結果となる可能性があります。